

## 後継者養成専門委員会

### 1 27年度の取組報告

各都道府県・ブロックで仲間をふやし、活動を活性化するためにアド養成講習会を実施した。26年度の都道府県会長会議の内容充実の提案を受けて、本年度は入門コース（初級編）と全日本コース（上級編）を経てアドバイザー認定を行うとした。そしてカリキュラムを次のとおり作り示した。

#### ①入門コース カリキュラム例

科 目	内 容	時間	単位
アドバイザーの役割	青少年育成についての基本的な考え方やねらい、青少年育成アドバイザーの役割について学びます	1	1
青少年の理解と育成	人間として成長していくためには、さまざまな発達過程や課題があります。その発達過程や課題を理解し効果的な育成方法を構築できるヒントを学びます。	2	1
青少年行政や関係法規	青少年行政施策の方向や青少年育成に関する法令を理解します。	1,5	1
青少年の相談(カウンセリング)又はコーチング	相談・助言の目的と方法の基本や心構え、カウンセリングとコーチングの違い等。演習を通して基本を学びます。	3	1
地域コーディネーターとして	地域には青少年育成に関わる様々な団体や人がいます。青少年育成環境をつくるためどのような考え方と手法で取組めばよいか学びます。	2	1
情報交換会	参加者の自己紹介と日頃の取組や地域の課題について語り合う。	1,5	1
合 計		11	6
県・市町の育成事業参加	青少年育成関係講習会や指導者研修やスキルアップ研修などに参加した		1

・各都道府県又はブロックアド連で入門コースカリキュラムの例に沿って、できる範囲で全日本コース前に実施する ・全日本アド連からの予算措置はなし とした。

#### ②全日本コース

地域の子どもは地域で育てよう

## 青少年育成アドバイザー養成講習会

【平成27年度全日本コース開催要項】

- 1 趣 旨 今日、少子高齢化、高度情報通信化、経済のグローバル化、格差の増大など目立ち始め、青少年においても、規範意識の低下、問題行動の多様化、社会性の未熟、親子関係の希薄化、虐待や携帯ネット被害の増加、ニート・引きこもりなど自立できない若者など様々な問題が生じ、新しい青少年育成が課題となっています。そこで、全国に呼び掛け青少年の心身の発達過程を理解し、その健やかな成長と自立を支援するための専門的な知識や技術を学び、地域における日常的な各種青少年育成活動の中核となる指導者を養成します。

### 2 研修日程と内容

日(曜)	プログラム	内 容	担 当
26日 (金)	開講式 13:00~13:20	主催者・来賓挨拶とオリエンテーション	主催者 後援者
	講義① 13:30~14:30	国の子ども・若者育成支援推進法による地域協議会のねらいと愛知県の取組を知り困難を抱える若者の支援策を学びます。	愛知県県民生活部社会活動推進課主任主査 森田恭弘
	講義② 14:40~16:15	人間の成長・発達課程を軸に、それぞれの発達段階で、どんな関係や活動、経験が必要か学びます。	群馬大学名誉教授 萩原元昭
	講義③ 16:30~17:30	今日の青少年育成アドバイザーの役割について考えます	全日本青少年育成アドバイザー連合会長 山本邦彦
	意見交換会④ 18:45~20:45	参加者の自己紹介と活動状況についてグループ別に語り合います。	助言者：萩原元昭、全日本青少年育成アドバイザー連合会役員
27日 (土)	講義と実習⑤ 9:00~12:00	相談・助言(カウンセリング)の意味、実践の基礎と応用について学びます。	名古屋大学大学院教授 博士(教育心理学)伊藤義美
	公開講義⑥ 13:00~14:10	国の進める青少年インターネット環境整備の現状と今後の取組みについて学びます。	内閣府政策統括官(共生社会政策担当) 付参事官(青少年環境整備担当)付 参事官補佐 清水泰貴
	公開講義⑦ 14:20~15:50	進化するインターネット社会の現状を知り、青少年育成者はどのように向き合い対応すればよいか学びます。	NPO 法人青少年メディア研究協会理事長下田太一
	活動事例紹介⑧ 16:00~17:20	地域で先進的な活動を行っている指導者の思いや実践活動の具体例を学びます。(①夜の街に漂う若者への街頭型アウトリーチと居場所づくり ②地域のネットワークづくりの実践)	NPO 法人全国子ども福祉センター理事長 荒井和樹 北海道青少年育成アドバイザー連絡協議会副会長 石井光郎
	課題研究⑨ 17:30~18:30	課題別グループで参加者の持ち寄った育成課題や問題を発表し合い、解決のためのテーマを整理する。	助言者：萩原元昭、下田太一、荒井和樹、石井光郎、小田元一、他
	18:40~20:30 全体交流会	夕食をしながら受講生と現アドバイザーでそれぞれの地域の話題を紹介し合い、交流と絆を深めます。	受講生、講師、各県青少年育成アドバイザー
28日 (日)	課題解決の企画立案⑩ 9:00~12:00	課題別グループで解決しなければならないテーマを絞り、テーマ解決のために必要な条件や背景を検討し、具体的な方策を皆で知恵を出しあい立案する。	グループアドバイザー：全日本青少年育成アドバイザー連合会役員 助言者：萩原元昭、下田太一

	全体会① 13:00～14:00	グループ別で立案した方策を発表し、講師の先生からアドバイスをいただき、明日からのアクションを明確にします。	コーディネーター：愛知県アド連相談役小田元一 助言者 萩原元昭、下田太一
	閉講式 14:00～14:30	挨拶と修了証授与及び青少年育成アドバイザー認定までの予定説明	主催者 (終了後に写真撮影)

※講師の都合で講義時間が変更になる場合があります。

- 3 主催 全日本青少年育成アドバイザー連合会
- 4 協力 全国青少年育成県民会議連合会
- 5 主管 愛知県青少年育成アドバイザー連絡協議会
- 6 後援 内閣府政策統括官【共生社会政策担当】、愛知県、愛知県教育委員会  
愛知県青少年育成県民会議、岡崎市、岡崎市教育委員会
- 7 対象者 ①青少年の育成指導・教育・支援等、幅広く青少年に関わる活動や仕事をしている人  
②青少年指導者としての基礎知識や今日の青少年を理解する手掛かりを学びたい人  
③住んでいる地域をいきいきとさせる手掛かりや相談・助言について学びたい人
- 8 募集定員 80名(先着順)
- 9 期日 平成28年2月26日(金)～28日(日)【2泊3日】〔受付：26日12:00～13:00〕
- 10 会場 愛知県青年の家(〒444-0802 愛知県岡崎市美合町並松1-2 TEL0564-51-2123)  
会場までのアクセス：JR名古屋駅で乗り換え、名鉄本線名古屋駅から美合駅まで急行約45分、美合駅から南西へ徒歩15分。JR豊橋駅から名鉄本線乗り換え美合駅まで急行約20分。車の場合は東名高速道路岡崎ICから約20分
- 11 参加費 20,000円(2泊3日の受講経費、食事、宿泊費を含みます。宿泊先を別にされる方は16,000円)。納入は別途連絡します。
- 12 講習の内容をより深めるために次の分野別に意見交換やグループワークを行います。申込書にどれかを選んでご記入下さい。
  - ①青少年の居場所づくりやニート・引きこもりの現状と向き合い方を学ぶ。
  - ②インターネット時代の子育て教育に関わる知識と、啓発への具体策を学ぶ。
  - ③価値観の多様化や地域の連帯感、少子高齢化の中で、青少年健全育成活動をどうデザインするかについて学ぶ。
- 13 青少年育成アドバイザーの認定
  - (1) この講習会の修了者には修了証を発行いたします。
  - (2) この講習会終了後から1ヶ月以内に、
    - ①小論文(1,000字～1,200字) 2編(テーマ「これからどんな青少年育成活動をおこなっていくか」「この講習会で学び感じたこと」と青少年育成アドバイザー認定申請書(自己紹介)を所定用紙に記入し全日本青少年育成アドバイザー連合会事務局に送付すること。
  - (3) 青少年育成アドバイザー認定は、主催者の認定委員会が①入門コース修了②全日本コース修了③小論文④青少年育成アドバイザー認定申請書を勘案し青少年育成アドバイザーとしてふさわしい方を全日本青少年育成アドバイザー連合会長名で認定し認定証を発行いたします。但し、入門コース講座に参加できなかった方は、後日主催者が指定する補講(受講者に連絡)を受けていただきます。
- 14 その他

- ・ 青少年育成アドバイザー認定後は各県アドバイザー会に加入でき、さまざまな青少年育成活動に参加できます。
- ・ この講座は青少年育成アドバイザーのフォローアップ研修を兼ねています。
- ・ 公開講義は受講者を含め130名を定員とします。公開講義のみの受講者は無料です。
- ・ 会場へは公共交通機関や自家用車等でお越し下さい。

## 結果

### 1、入門コースの取組状況

北海道 11月23日札幌市で行った。1日で新受講者12名参加

宮城県 11月23日仙台市で行い、1日で新受講者17名参加

東海北陸ブロック 11月21・22日金沢市で行い新受講者9名参加

鳥取県 12月11日青少年育成推進指導員・アド養成合同研修会を行い新受講者5名参加

### 2、全日本コースを全日本アド連主催、愛知県アド連主管で平成28年2月26日～28日に愛知県青年の家で開催した。

#### (1) 参加状況(全体で65名)

①新受講者 北海道2、岩手1、宮城3、東京1、愛知15、岐阜1、和歌山1、愛媛3、鳥取3、  
沖縄5 計35名

②既アド者 北海道1、宮城1、岐阜1、和歌山1、兵庫3、愛媛2、鳥取1、愛知20、 計30名

③各県2名以上達成県

北海道3、宮城4、岐阜2、和歌山2、兵庫3、愛媛5、鳥取4、愛知35、 計8県

#### (2) 入門コース⇒全日本コースに参加した新受講者

北海道2、岩手県1、宮城3、愛知3、岐阜1、鳥取3 計13名

### 3、入門コースを受けていない者の対応

#### (1) 加盟県アド連のあるところ

全日本コース受講後に県アド連の主催する事業又は当該県市町村並びに県市町村民会議が実施する青少年育成事業(半日程度)に3回以上参加し、所定の用紙に参加記録を付し、県アド連会長に送付する。県アド連会長は、所定用紙推薦欄に推薦理由を記し全日本アド連認定委員会事務局に送付する。記名押印しその状況をみて県アド連会長名で認定申請をする

#### (2) 加盟県アド連がないところ

全日本コース受講後に当該県市町村並びに県市町村民会議が実施する青少年育成事業(半日程度)を指定し3回以上参加し、所定の用紙に参加記録を付し、全日本アド連認定委員会事務局に認定申請をする。

(3) 教員免許、社教主事、青少年担当公民館主事、ユースアドバイザー修了者等は入門コースを学んだものとすることができ、その資格等を認定申請書に記す。

### 4、アド認定委員

萩原元昭群馬大学名誉教授(委員長)、伊藤順子(宮城)、稲垣喜夫(富山)、松田正巳(滋賀)、香川勝(香川)、山本邦彦(会長)、谷本治(事務局長)、宇野晃(愛知)、山本又三(東京都) 計9名。  
アド認定委員会の事務局は宇野晃(愛知)担当。

### 5、アド認定までの手順

#### (1) 入門コース修了者

全日本コース修了(2月28)⇒小論文2編の提出(4月10日締切)⇒4月15日第1回認定

委員会開催（入門コース修了＋全日本コース修了＋小論文＋申請書を勘案しふさわしい方を認定）⇒認定者に認定料・登録料（8千円【バッチ含】）の納付依頼⇒納付確認後に認定証の郵送。そして該当都県アド連加入。

(2) 入門コースを修了していないが全日本コースを修了した人

全日本コース修了(2月28日)⇒入門コース（各県指定補講を受講）⇒小論文2編の提出（4月10日締切に間にあった者）⇒4月15日第1回認定委員会開催（指定補講を修了＋全日本コース修了＋小論文＋申請書を勘案しふさわしい方を認定）⇒認定者に認定料・登録料（8千円）の納付依頼⇒納付確認後に認定証の郵送。そして該当都県アド連の会員。

(3) 第1回アド認定委員会に所定の書類が届かない方（受講者）は、28年11月29日の第2回アド認定委員会で審査し認定する予定。

## 6、新アド認定者

4月15日の第1回認定員会で次の22名を青少年育成アドバイザー 第4期生として認定した。

北海道	土屋 公保、津田 美雪
宮城県	阿部 和子、千種 八重子、渡部 美智子
東京都	間宮 由美
愛知県	城 美智子、近藤 位知子、鈴木 俊宏、成田 直樹、小林 忠義、古山 勝人、村野 政章、落合 佑哉、関原 美智代、山本 百百代、船木 陽子、長谷川 幸子
岐阜県	小川 達大
鳥取県	西垣 康正、植嶋 しのぶ、松原 厚子

## 7、28年度に向かって

(1) 27年度アド養成講習会に受講し修了証された方は必ず必要な書類は提出しアドとして認定し、各県アド連に加入し活動をしてもらうことが基本とし、第2回アド認定委員会に向けてアフターフォローしていく。

(2) 後継者養成事業を行わないことは、青少年育成アドバイザーはこれで終わりともみなされる。よって、継続して行っていかなければならない。

(3) 今回愛知県アド連主管3回目の開催で要領を得たとは

### 1 受講者集め

- ①各都道府県必ず2名以上確保
- ②日頃からアドは活動する中で後継者らしい人を見つけること
- ③アド連は県や市行政と連携を保ち、その主催する事業に募集要項を配れるようにする
- ④各都道府県で入門コースを行う。

### 2 後援

27年度は内閣府、県民会議連合会、県、市と後援を得た。特に内閣府と県民会議連合会の後援は大きく次回もお願いしていく。

### 3 予算

- ①会場費、食事費、会議室の比較安いところがよい。
- ②経費は参加費によることがほとんどなので、受講者の確保が必須。
- ②主管しお世話する立場や既アドでも受講料は同じという料金設定が必要。

### 4 事務局について

計画立案、募集要項の作成、後援依頼・報告、参加者確保、会場確保、当日役割分担、役割説明、講師依頼・礼状、講師レジュメの依頼・纏め製本、受講後はアド認定まで面倒をみていく

等と事務的な仕事があり、完璧を目指せば目指すほど打合せやチェックが大切となる。どうしても特定の人が専断的に責任をもってやる必要がある。

## 5 主管団体のメリットとデメリット

- ① 地元開催なので受講者を集めやすい。よって会員増が期待される。新しい人を受け入れ吸収、成長する度量が必要となる。
- ② 会員が運営や司会等が学べる体験ができる。参加しお手伝いすることで交流や情報交換ができる。他県の様子が分かり刺激になる。
- ③ 慣れないと、手間がかかり、負担が大きくなる。赤字が心配。地元からの参加者少ないと格好がつかない。役員の集まる機会が増える。責任の分担も必要。

## 6 次回開催について

- ① 地元開催のメリットと新しいアド発掘の観点から新たな県・ブロックで開催することが望ましい。
- ② 具体的な開催場所と期日は28年度事業計画に載せ役割分担、プログラム、参加者募集等は後継者養成専門委員会で決めることとする。

## II 28年度の取組み（案）

我が国の青少年健全育成をはかるために、地域の日常的な各種育成活動の中核的となる指導者・青少年育成アドバイザーを養成し、もって、全日本アド連及び加盟都道府県アド連活性化と継続の担い手と資する。アドバイザーの資質の向上を図るために初級編（入門コース）と上級編（全日本コース）を実施する。

### 1 アドバイザー養成事業の実施

#### （1）入門コース（初級編）

- ・各都道府県アド連若しくはブロック単位で行い、日ごろの青少年育成活動に携る方やこれから青少年育成に興味のある方々に幅広く声をかけ受講を奨める。
- ・修了者は各都道府県又はブロックアド連の会員（準会員）となる道を用意する。
- ・カリキュラムの例は前年度を参考とする。
- ・日程は1泊2日、1日、他の既育成研修に追加プログラムを入れて行うなど工夫して各都道府県又はブロックで実施する。
- ・修了者を準会員とし、全日本コースを経てアドとなったら正会員とする方向もある。

#### （2）全日本コース（上級編）

- ・基本は入門コースを経て受講すること。
- ・アドバイザー認定はこのコースを修了しないと認定の対象とならない。
- ・事情により入門コースができない場合は直接受講することもできる。その場合は受講後に全日本アド連が指定する又は全日本アド連が一任する団体の指定する講座又は研修等に補講として3回（以上半日程度）以上参加する必要がある。
- ・カリキュラム例は次のとおり。

科 目	内 容	分	単 位
アドバイザーの役	青少年育成支援の基本と、青少年育成アドバイザーの役割について	60	1

割	学びます		
国の青少年育成施策の理解	国のすすめる施策の内容を学びます（子ども・若者育成支援推進法、インターネット環境整備法を基にした施策等）	70	1
青少年の発達理解	幼児から青年になるまで、幾つかの成長過程があり、適切な対応が必要になります。それぞれの次期の特徴と課題を知り、対応方法を学びます。	90	1
青少年育の成課題解決の方策を学ぶ	青少年健全育成のために、中高生の居場所づくりや不登校・ニート・引きこもり支援、食育、放課後児童クラブ、ネット見守、子育て支援等さまざまな問題や課題があります。それらの実態を知り、住みよい町づくり・地域づくりの観点での取組の方策を学びます。	180	1
青少年育成プログラムの企画立案	受講参加者がそれぞれレポートで育成課題を持ち寄り、解決のため方策をグループ考え助言者を混じえて考え、企画立案する能力を身に付ける。	120	1
企画立案の全体会	グループでまとめたを模造紙で報告し、助言者からコメント	60	1
相談・助言	さまざまな青少年の悩みや課題に適切に対応し支援できるようなカウンセリングやコーチングの技術を学ぶ。	180	1
ネット時代の子育て	ネット関係機器が進化し情報が溢れる社会で、青少年育成者はどうネット向かい合うか体験・体感で学びます。	90	1
情報交換会・課題研究	参加者の自己紹介と日頃の取組や地域の課題について語り合います。	180	2
合計		1030	10
内閣府や県の育成関係事業	青少年育成関係講習会や指導者研修やスキルアップ研修などに参加した		

### (3) アドバイザー認定の手順

- ・入門コースと全日本コースを修了し、小論文2編と自己申請書を提出した方で、アド認定委員会で審議し、相応しい方をアドバイザーとして認定する。
- ・入門コース未修了者は補講を受けること。また、一定の資格のある方は免除する場合があります。

## 2 28年度全日本コース開催要領

期 日 平成29年2月17日（金）～19日（日）

場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター

受講者確保 既アドバイザーのフォローアップ研修も兼ねますので、新人を含め各県最低2名以上の受講者を、開催地の東京都又は関東・甲信越ブロックで20名以上の受講者確保を目指す。

財 源 受講者の参加料に依ることが大きく60名以上の受講者の確保が必達となる。

運営体制 全日本アド連及び関東ブロック並びにアド東京会

## 地域の子どもは地域で育てよう

# 青少年育成アドバイザー養成講習会

### 【平成28年度全日本コース開催要項】

- 1 趣 旨 今日、少子高齢化、高度情報通信化、経済のグローバル化、格差の増大など目立ち始め、青少年においても、規範意識の低下、社会性の未熟、虐待や携帯ネット被害の増加、ニート・引きこもりなど自立できない若者など様々な問題が生じ、新しい青少年育成が課題となっています。そこで、全国に呼び掛け青少年の心身の発達過程を理解し、その健やかな成長と自立を支援するための専門的な知識や技術を学び、地域における日常的な各種青少年育成活動の中核となる指導者を養成します。
- 2 主 催 全日本青少年育成アドバイザー連合会
- 3 協 力 全国青少年育成県民会議連合会（予定）
- 4 主 管 青少年育成アドバイザー東京会又は関東ブロック連合会又は実行委員会（検討事項）
- 5 後 援 内閣府政策統括官【共生社会政策担当】、東京都、東京都教育委員会、独立行政法人国立青少年教育振興機構（以上予定）
- 6 対象者 ①青少年の育成指導・教育・支援等、幅広く青少年に関わる活動や仕事をしている人  
②青少年指導者としての基礎知識や今日の青少年を理解する手掛かりを学びたい人  
③住んでいる地域をいきいきとさせる手掛かりや相談・助言について学びたい人
- 7 募集定員 80名（申込締切は2月15日迄）
- 8 期 日 平成29年2月17日（金）～19日（日）【2泊3日】〔受付：17日12:30～13:30〕
- 9 会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター（センター棟）  
〒151-0052 東京都渋谷区神園町3-1 TEL03-3467-7201（代）
- 10 参加費 20,000円（2泊3日の受講経費、食事、宿泊費を含みます。宿泊先を別にされる方は16,000円）。納入は別途連絡します。
- 11 講習の内容をより深めるために次の分野別に意見交換やグループワークを行います。申込書にどれかを選んで申込書にご記入下さい。
  - ①青少年の居場所づくりやニート・引きこもりの現状と向き合い方を学ぶ。
  - ②インターネット時代の子育て教育に関わる知識と、啓発への具体策を学ぶ。
  - ③価値観の多様化や地域の連帯感、少子高齢化の中で、青少年健全育成活動をどうデザインするかについて学ぶ。
- 12 研修日程と内容



日(曜)	プログラム	内 容	担 当
17日 (金)	開講式 13:30~14:00	主催者・来賓挨拶とオリエンテーション	主催者 後援者
	講義① 14:00~15:10	国の子ども・若者育成支援の取組について学びます。	内閣府共生社会政策担当官
	講義② 15:20~17:00	人間の成長・発達課程を軸に、それぞれの発達段階で、どんな関係や活動、経験が必要か学びます。	群馬大学名誉教授 萩原元昭
	講義③ 18:30~19:30	今日の青少年育成アドバイザーの役割について考えます	全日本青少年育成アドバイザー連合会長 山本邦彦
	意見交換会④ 19:45~21:30	参加者の自己紹介と活動状況についてグループ別に語り合います。	助言者：萩原元昭、全日本青少年育成アドバイザー連合会役員
18日 (土)	講義と実習⑤ 9:00~12:00	青少年問題解決のための相談・助言(カウンセリング)の基礎と応用について学びます。	大学教授
	講義⑥ 13:00~14:30	困難を抱える子ども・若者の居場所づくりを進めるためにどんな考えでどんなアクションを起こすべきか考えます。	神奈川大学講師 久田邦明
	講義⑦ 14:40~16:10	進化するインターネット社会の現状を知り、青少年育成者はどのように向き合い対応すればよいか学びます。	NPO 法人青少年メディア研究協会理事長下田太一
	講義⑧ 16:30~18:00	青少年健全育成は青少年育成に関心をもてるや町や育む町づくりがとても大切になってきます。そこでどんな発想で町づくりをすべきか実践例を交え学びます。	聖徳大学名誉教授 聖徳大学生涯学習研究所長 福留 強
	課題研究⑨ 19:30~21:30	課題別グループで参加者の持ち寄った育成課題や問題を発表し合い、解決のためのテーマを絞る。	助言者：萩原元昭、下田太一、久田邦明、福留強、他
19日 (日)	課題解決の企画立案⑩ 9:00~11:00	課題別グループで解決しなければならないテーマを絞った問題解決のために必要な条件や背景を検討し、具体的な方策を皆で知恵を出しあい立案する。	グループアドバイザー：全日本青少年育成アドバイザー連合会役員 助言者：萩原元昭 他
	全体会⑪ 11:00~12:00	グループ別で立案した方策を発表し、講師の先生からアドバイスをいただき、明日からのアクションを明確にします。	コーディネーター： 助言者 萩原元昭 他
	閉講式 12:00~12:30	挨拶と修了証授与及び青少年育成アドバイザー認定までの予定説明	主催者

※講師の都合で講義時間が変更になる場合があります。

### 1.3 青少年育成アドバイザーの認定

(1) この講習会の修了者には修了証を発行いたします。

(2) この講習会終了後から1ヶ月以内に、

①小論文(1,000字~1,200字)②編(テーマ「これからどんな青少年育成活動をおこなっていくか」「この講習会で学び感じたこと」と青少年育成アドバイザー認定申請書(自己紹介)を所定用紙に記入し全日本青少年育成アドバイザー連合会事務局に送付すること。

(3) 青少年育成アドバイザー認定は、主催者の認定委員会が①入門コース修了②全日本コース修了③小論文④青少年育成アドバイザー認定申請書を勘案し青少年育成アドバイザーとしてふさわしい方を全日本青少年育成アドバイザー連合会長名で認定し認定証を発行いたします。但し、入門コース講座に参加できなかった方は、後日主催者が指定する補講(受講者に連絡)を受けていただきます。

### 1.4 その他

- ・ 青少年育成アドバイザー認定後は各県アドバイザー会に加入でき、さまざまな青少年育成活動に参加できます。
- ・ この講座は青少年育成アドバイザーのフォローアップ研修を兼ねています。
- ・ 会場へは公共交通機関でお越し下さい。

#### 【研修についてのお問い合わせ先】

全日本青少年育成アドバイザー連合会事務局長 谷本 治 携帯 090-8692-9182

【全日本青少年育成アドバイザー連合会とは】青少年育成アドバイザーは、青少年育成活動の分野において専門的知識及び経験を有する青少年育成指導者で、(旧)社団法人青少年育成国民会議が昭和53年から平成20年まで「青少年指導者のための通信教育」で、一定の課程を経て認定した方々等です。全国で4,110名程の方々が認定され、全国各地において青少年の健全育成や多様な地域活動に参画しています。

全日本青少年育成アドバイザー連合会は都道府県青少年育成アドバイザー会をまとめる全国組織で平成9年9月に発足し、会員数は1,222名。事業として育成課題の全国研究集会や平成23年度から青少年育成アドバイザー養成講習(既に93名の認定)を行っています。事務局は愛媛県宇和島市三間町是能202-40 谷本治宅にあります。

#### 特別会計

全日本青少年育成アドバイザー連合会主催

平成28年度青少年育成アドバイザー養成講習会予算(案)

収入の部

(単位円)

項目	予算額	備考
1 開催費	50,000	全日本アド連予算特別会計から
2 参加費	1,440,000	参加費(全日程) 20,000円×50人=1,000,000 参加費(全日程泊無し) 16,000円×20人=320,000 参加費(全日程泊食事無し) 12,000円×10人=120,000
3 寄付金 その他	5,000	寄付金
合計	1,495,000	

## 支出の部

(単位円)

項 目	予算額	備 考
1 通信費	83,000	全日本アド連加盟県205円×30=6,150、都道府県担当課 205円×47=9,635、東京都関係区市町村205円×63 =12,915、関係NPO団体120円×300=36,000 参加者案内82円×80人×2回=13,120、講師、後援申 請・報告郵送料等5,180
2 会場費	138,100	オリンピックセンター28,100円、他会場80,000円 会場案内板、横断幕棟30,000
3 事務費	65,000	プリンターインク代、コピー用紙、封筒、マジック、名札、記録写真等
4 講師及 び助言者費 (交通費含)	360,000	1人60,000円×5人、助言者20,000円×3人
5 印刷費	110,000	募集要項チラシ印刷50,000 資料印刷第代500円×120部=60,000
6 宿泊費	196,000	1,600円×50人×2日 講師・助言者4,500円×4人×2
7 食糧費	379,000	夕食800円×75人=60,000 交流会(夕食兼) 2,000円×75人=150,000 朝食500円×50×2日=50,000 昼食700円×85×2日=119,000
8 会議費	40,000	打合せ、反省会議費等10,000円×4回
9 旅 費	80,000	関係機関棟折衝交通費
11 予備費	43,900	
合 計	1,495,000	